



2020年度 Good郡上プロジェクト 応募提案

タイトル	ふるさとPR動画を製作しよう
課題	郡上市には少子高齢化、過疎化、経済問題などの課題がある。また、郡上市の中学生は、郡上市に住みながら自分の地域以外の郡上の良さを知らないという実態がある。
提案内容	<p>各中学校で一年生から取組んでいる総合的な学習のまとめとして、地元の良さを写真や動画としてまとめ、中学生が解説を加えた動画を制作する。郡上かるたに登場するような名所と共に、「地元民が知る素敵な場所」などを紹介する。この動画をDVDなどにまとめ、市内の小中学校に渡して視聴していただいたり、郡上のケーブルTVで放映していただいたりすることを通して、多くの人に興味・関心をもっていただけたら考える。</p> <p><成果></p> <p>① 制作にかかわる中学生たちが、さらに郡上の良さを見つめ、より関心をもって「地元を良くしていきたい」と考えるようになる。</p> <p>② 動画を視聴した人が、郡上の他地域の良さを知ってそこへ出かけたり、郡上への関心を高め、大切にしたいと思うようになる。</p> <p>この活動を通して、郡上市の課題に向き合っていきたい。</p>
自分で 行う活動	<p>① これまでの（1年、2年）学習を振り返り、地域の良さや課題をまとめる。</p> <p>② 紹介したいテーマを考え、具体的な場所や物、人を決める。</p> <p>③ 実際にロケ地へ行き、撮影を行ったり、インタビューを行ったりする。</p> <p>④ 映像制作にかかわる技能を学ぶ。</p> <p>⑤ 観光協会やケーブルテレビへの働きかけを行う。 （可能であれば、自分たちで撮れない映像をいただけるか確認する。）</p> <p>⑥ 保護者や地域の人に見てもらえる日をつくる。</p> <p>⑦ DVDにしたものを他の小中学校へ送る。</p>
協力者が 行う活動	<p>① 提案したDVDをテレビや道の駅などで放映する。</p> <p>② SNSやネットなどで情報公開をしたり、PRしたりする。</p> <p>③ 観光協会の方などにアドバイスをいただいたり、インタビューを受けてもらう。</p> <p>④ 動画の提供をしてもらう。</p> <p>⑤ 他の小中学校へDVDを送り視聴してもらう。</p>

<p>タイトル</p>	<p>廃校カフェ (地域再生プログラム)</p>
<p>課題</p>	<p>① 郡上に増えつづける廃校 学校は足跡地が活用されていない 例えば大和の小学校は廃校がまわっているが、どうするのかわからず発表されていない。 郡上市内で2000年以降の廃校の数は 小...5校 中...2校 高...1校 (wikipedia調べ)</p> <p>② 公共施設が足りない 車の数は{豊前...6軒 郡上市では27軒。他の市と比べて施設が少ない。 高山市...52軒 また守りカフェ、子供連と触れ合えるような体感の場が少ない。</p>
<p>提案内容</p>	<p>廃校をカフェにする 計画内容 1年目...郡上市に計画案を通す(未来会議から) 2年目...郡上市に案が通る 3年目...設計案を出し合う 4年目...宣伝、人員石室テナント、ボランティアを募る 5年目...廃校のリニューアル、カフェ開店 6年目...放課後の生徒や子供連の人など中富広い人達に来店してもらう</p> <p>Point 使える教室が多いので、カフェ以外に勉強ができるフリースペース、子供が遊べるスペースなどたくさんの人達に必要な環境にある。</p> <p>なぜカフェにしたのか 勉強する施設だと来る客の中富が減ってしまうこと、少しインパクトが薄く、人気が出ないと感じたから。 また、廃校カフェにすることでインパクトはあるし、学生だけでなく中富広い年代の人を利用してもらえると思ったから</p> <p><u>※利益を出すために、スペースの利用は無料だが来客人は一品料理を頼むなど工夫する</u></p>
<p>自分で 行う活動</p>	<p>① ポスターを作成(ボランティアの募集) ・廃校カフェのSNSアカウントを作り教員や保育士をターゲットとしている人を 中心に募集する。(したい人はだれでもいい)</p> <p>② 廃校のサーチ 例 大和の西側の小学校</p>
<p>協力者が 行う活動</p>	<p>廃校カフェを運営するにあたって金銭面などサポートしてもらう 糸巻持費やリニューアル代など募金を募る。</p>

タイトル		郡上の伝統を知ろう！
課題	何が課題？	郡上の伝統を詳しく知らない。
	課題の原因は？	「伝統」というものが当たり前の存在になっており、その伝統に興味を持つ機会がなくそのままにしている為、伝統やその伝統の意味を知らない。
提案内容	「Do」 何をする？	<p>【郡上おどり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな郡上おどりを鑑賞してみる。また体験をしてみる。 ・外国の方や地域の方を招いて一緒に実践をしてみる。 <p>【短歌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者に話を聞く。 ・短歌を授業等で作ってみる。 ・短歌大会をしてみる。 <p>【食品サンプル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外研修の一環として学ぶ機会をつくったり、夏休みやGW、冬休みなどの長期休暇を利用して体験イベントを開催する。
	「Chage」 どう変わる？	<ul style="list-style-type: none"> ○郡上の歴史の知識が増える。 ○郡上おどりに参加したいという思いになる。 ○感受性が豊かになる。 ○地元・郡上の良さを再確認してもらえきっかけになる。 (○歴史が好きになる) <p>△興味がない人にとってはただの苦痛。</p>
自分で 行う活動	自分たちが提案、行動すること	<ul style="list-style-type: none"> ○郡上の歴史を知るための講習会を行う。 ✓<u>学校の行事等で郡上おどりや白鳥おどりをを行う。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や体育祭で児童、生徒、保護者、地域の人みんなで参加する。 ✓<u>短歌を授業で制作・特別授業を行う。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌に詳しい人や、専門家の人を学校にお呼びして、ワークショップを開催する。 ・短歌に関するポスターやチラシを製作して配ったり貼ったりしてより多くの人に知ってもらえるような活動をする。 ✓<u>食品サンプルと触れ合う機会を増やす。</u> <ul style="list-style-type: none"> ・不定期で食品サンプルについて学んだり、製作したりする機会はあるが、それは一部の人なので、市内の児童や生徒が参加し、学ぶことができる機会をつくる。 →そのために、校外研修の一環として行ったり、夏休みやGWなどの長期休暇期間にイベントを開催・行う。
協力者が 行う活動	行政や地域に協力してもらいたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・郡上の歴史や文化について学べる授業をそれぞれの学校で取ってもらう ・郡上おどりや短歌について詳しい人や教えている人、関係者をお呼びする。 ・食品サンプルを製作・販売をしている企業・団体と市の教育委員会が連携し、郡上の工芸品について学べる機会をつくってもらう。

<p>タイトル</p>	<p>つなげて!! enjoin!! (enjoy + join)</p>
<p>課題</p>	<p>〈若者のボランティアの自主性を高める〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの存在を知らない ↳ 活動内容がわからないことが原因。 ・約30年後 高齢者:65歳以下の人 = <u>1:1</u> になる。 ↳ 支えられなくなる ・市の取組み 生活が困難な人のおにかけマン 「<u>支え合いサポーター</u>」を市に広めたがっている。→ 現状:年間20人(6年目120人) <p>きっかけがない 数人だけの規模</p> <p>実際動けるのは半以下... ↳ 仕事が多すぎて今は動けないのが大半。</p> <p>もったいないと思った</p>
<p>提案内容</p>	<p>〈解決策〉 ジュニアリーダーズ(中高生) = 中間サポーター</p> <p>① 地域の人たちと話し合い(将来ビジョン作成のために)</p> <p>どこ? 誰がくる?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館 対象者 ・学校 支え合いサポーターのリーダーの人 ・集会所 ジュニアリーダーズ <p>※1. 地域の人たちの意識改革 ↳ 住民が共有して同じ方向を見ているか</p> <p>※2. 話し合いをするために(お金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金を使って動くことができる ↳ 市から出してもらう! <p>※3. 依頼者(大人のカが必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働センターの人たち ・社会福祉協議会 ・高齢福祉科の人たち ・公民館や集会所 <p>インターネット運営支援</p> <p>話し合い ↓ 課題</p> <p>高校生!</p> <p>小中学校で総合的な学習の時間を設けてもらう。</p> <p>言葉集めが おける!</p> <p>③ 系属談話を広める!</p> <p>④ サポーター同士の活動を見直し</p> <p>PDCAサイクル</p> <p>楽しさと活動内容を!</p> <p>⑤ 系属</p> <p>告知</p> <p>×無理矢理の楽しさを伝える</p> <p>「中間サポーター」生徒に直接ボランティアの楽しさや内容を伝えるための組織。</p>
<p>自分で 行う活動</p>	<p>中間サポーター(ジュニアリーダーズ) ↳ 中高生中心</p> <p>↓</p> <p>生活に直接ボランティアの楽しさや内容を伝える。</p> <p>小中高校での総合的な学習の時間 ↳ 学校で生徒に直接!!</p>
<p>協力者が 行う活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来ビジョン作成のための話し合い ・市からの補助金(※1) (話し合いのための場所の貸出, 移動手段など) ・公共施設談話の貸出(※2) ・インターネットや運営支援(※3)

タイトル		郡上防災アプリ
課題	何が課題？	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップと実際の避難場所が一致していない ・郡上の防災情報が分かりづらい
	課題の原因は？	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップが見つらい ・郡上市の防災に特化したアプリがない
提案内容	「Do」 何をする？	<p>郡上市の防災アプリを作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の情報が分かる ・川の水位が分かる ・道路情報や公共交通機関の情報が分かる ・警報発令時に通知がくる ・被害情報を配信する <p>防災アプリを宣伝する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビで紹介してもらう ・アプリの利用を勧める
	「Chage」 どう変わる？	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人がアプリを利用してもらえる ・市民の防災意識が上がる ・必要な時に必要な情報を得ることができる
自分で 行う活動	自分たちが提案、行動すること	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの宣伝 ・アプリの内容の提案、企画
協力者が 行う活動	行政や地域に協力してもらいたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップを利用して、現在の避難場所を見直しする ・防災アプリを製作する ・郡上ケーブルテレビに宣伝してもらう